

お金以上の価値ある経験

— 1年間のイギリス留学を通して —

Priceless Experience:

Studying Abroad in the UK

立教大学 文学部文学科 須貝 早絵

SUGAI Sae

(Undergraduate Student, Department of Letters, College of Arts, Rikkyo University)

キーワード：派遣留学、自己成長、価値

1. はじめに

私は、2014年9月から2015年6月の約一年間弱、大学の派遣留学制度を利用しイギリスにあるシェフィールド大学へ留学しました。シェフィールドという場所は、ロンドンから電車で北へ二時間ほどのところにあり、緑豊かなところでした。

私は、今回の留学を通して「留学には、お金では買えない価値がつまっている」と強く実感しました。本レポートでは、留学のきっかけや現地での生活、学んだことをお伝えしながら、留学の魅力について述べていくと同時に、留学を支援する側に必要なことについても述べさせて頂きたいと思います。本レポートが、少しでも読者の皆様の参考となれば幸いです。

2. 留学を決意した理由

留学に挑戦する理由は人によって様々あると思いますが、私の場合は大きく分けて四つありました。

まず一つ目は、世界という大きな舞台で自分の力を試してみたい！という気持ちがあったことです。

私は大学二年生の時、海外の授業と同じスタイルで行われる英語の講義をとっていました。その講義で教授から、「その英語力があれば、海外に出ても大丈夫」とおっしゃって頂きました。そのとき素直に嬉しかったのですが、同時に、本当に海外に出ても通用するのか？どれくらい海外の人々と互角に渡り合えるのか？という疑問を抱きました。また、英語力のみならず、自分の行動力や積極性も海外で通用するかが気になったので、外の世界に飛び出し自分の語学力・人間力を試そうと決めました。

二つ目の理由は、何か一つのことを成し遂げる経験をしてみたいと考えたからです。私は大学までの自分を振り返った時に、目標として掲げたことを最後までやり抜いた経験が少ないと感じていました。何事も目標を掲げるものの中途半端なままやめてしまったり、口先だけで行動が伴わなかったりということが多かったからです。そこで、高校時代から漠然と目標にしていた「留学」を実行へと移すことで、最後までやり通せる自分に変えようと決意しました。

三つ目の理由は、世界中の様々な文化や価値観に触れることで、自分の見聞を広げてみたかったということです。私は、色々な考え方や価値観を持つ人と交流することで新たな発見につながると考えています。そのため今まで出会ったことがない国の人と交流してみたい、自分の人脈を世界に広げたいと考え、その機会を自分で生み出していこうと考えました。また、他国に足を運ぶことで、日本とは違う文化や歴史に触れることができ、より自分の視野を広げられると考えました。

最後の理由は、実際に海外生活を送ることで、自分の将来について考えたいという気持ちがあったことです。私は留学前、漠然と海外と関わる企業で働きたいと考えていました。しかし、海外に住んで働くとはどういうことなのか？どのように海外と関わるのか？と具体的なイメージが湧きませんでした。そこで、日本ではなく海外という場所で過ごすことで、自分の将来を考えてみようと思いました。

以上の四つが海外留学を決めた理由です。留学を考える学生には、具体的な目標を持っている人もいますが、中には就職活動に有利という安易な考えを持ってしまう方もいるかもしれません。確かに、留学に行けば英語力はある程度伸び、海外に住んだ経験はアドバンテージになるかと思えます。しかし、そこで大切になってくることは、留学に行っただけでは何の意味にもならないということです。留学前から帰国後まで、自分自身が目的意識を持ちながら能動的に何事にも取り組むことこそ、自分自身の成長につながります。その点をきちんと理解したうえで、多くの方に留学にトライして頂きたいです。

3. 留学までの道のり

留学を実現させるための期間も私にとって成長する時間となりました。なぜなら乗り越えるべき課題が多くあったからです。

まず一つ目の課題は、両親を説得することでした。はじめ、私の両親は留学に反対していました。多額の費用が掛かること、大学を休学してしまうことなど、デメリットが多くあるのではないかと考えていたからです。そこで、なぜ休学までして留学をするのか、海外で何をしたいのかということを中心にきちんと伝える必要がありました。最初はなぜ反対されているのかわからず、どうせ理解してくれないと思っていましたが、自分の考えをまとめていくうちに両親に反対されて良かったと感じるようになりました。なぜなら反対されたことによって、なぜ留学をしたいのかという目的について明確に考

えることができたからです。最終的には、自分の目標や理由、計画について納得してもらうことができ、留学に挑戦することができました。学生の中には、保護者の方に言われて留学をするという人もいるかもしれませんが。しかし、その受け身の姿勢では、留学中に経験することを自分の力でなかなか乗り越えられないと思います。留学を考える学生の方は、ぜひ自発的に留学に挑戦してほしいです。また、留学を志す学生のご家族や大学の先生方にも、ぜひ「なぜ留学をするのか」ということを問いかけてほしいと思います。そうすることで、学生がより真剣に留学について考えることができるのではないのでしょうか。

二つ目の課題が、留学の費用を準備することでした。私は私立大学に通っており、東京で一人暮らしをしているため、両親には経済的負担をかけています。そのため、なるべく自分の力で留学費用を準備する必要がありました。そこで、大学の講義の合間を縫ってアルバイトをしたり、大学が募集していた奨学金に応募したりしました。幸い応募していた奨学金を頂くことができたため、少しは経済的負担を軽減できました。おそらく、学生の中には経済的な理由で留学をあきらめてしまう人もいます。しかし、私のようにアルバイトをしたり奨学金をいくつも応募したりすれば、留学の費用を準備することができます。資金がないなりにできることはあるので、経済的理由をあきらめる前にできることはないかと考えてみてほしいです。

三つ目の課題は、ビザの申請や大学とのやり取りなどの事務手続きでした。イギリスのビザ審査は厳しく、申請資料も複雑だったため、ビザの準備を始めてから手元に届くまで時間がかかりました。また、資料を作成するときに参考になるデータも少なかったため、自分の記入したことが適切かどうか分からず不安を感じました。さらに講義や大学寮についてイギリスの大学に聞いていたものの、返信にも時間がかかったため、わからないことが容易には解決せず留学を経験した先輩に聞くしかないこともありました。

このように、留学をする前から様々な課題があり、留学は単に海外に行くだけではないのだということを実感しました。それと同時に、自分自身でしっかりと準備を進めていくことで、何事も自分自身で解決する力を養うことができ、留学前から自己成長につなげることができたと思います。

4. イギリスでの留学生活

① 講義について

私は、日本やアジアの国々について客観的な視点から学んでみたいと考え、East Asian Studies という学部で学習していました。韓国や中国の経済発展、日本の世界における国際関係など、自分の専攻分野とは全く異なる分野への挑戦でした。講義は一コマ50分で、レクチャーとディスカッションがそれぞれ週に1~2時間あるというスタイルでした。日本の大学のように座っていればいいというものではなく、ディスカッションでは意見を言うことが求められたため、きちんとその週に取り上げるテ

ーマを理解する必要がありました。そのため、講義の予習として各講義で20～40ページもの膨大な量のリーディングをこなす必要があり、いかにして効率よく読めるかと日々格闘していました。また、各講義で出される2,000字～3,000字のエッセイもただ書けばいいというものではなく、自分の意見の根拠を示しながら論理的に書かなければならず、様々な文献を読んで知識を得る必要がありました。さらに3時間に及ぶ論述式の学期末のテストにおいても、講義で習ったことに加え、関連する書籍を読んで準備すること、制限時間内に蓄えた知識をアウトプットすることが求められたため、今まで受けてきたテストの中で一番ハードなものでした。このように、日本の学習スタイルで通用することはなく、今までの人生の中で一番机に向かったのではないかと思えるほど学習に励みました。それぞれの課題を乗り越えるのはつらいこともありましたが、論理的に物事を考えて伝える力や自発的に課題に対して深める力を吸収できたと思います。

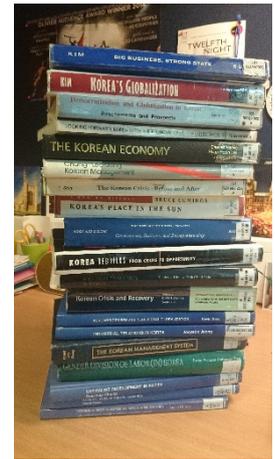


図1 テスト勉強のために借りた書籍の山



図2 クラスメイトと最後の授業にて

② 課外活動について

学習のみならず、課外活動にも挑戦してみたいと考えていたため、主に三つの活動を行いました。まず一つ目は、毎週日曜日のバスケットボールへの参加です。私が通っていた大学には、寮に住んでいる学生が無料でスポーツができるセッションがあったため、それを利用して行っていました。この活動は男子学生の中に女子学生一人という活動だったため、最初は周りとは打ち解けるところに時間がかかりました。しかし、男子学生に負けることなく積極的にプレーをして、スポーツを通してコミュニケーションをとることに励みました。

二つ目は、今までやったことがないことをしてみようと考え、ゴスペルサークルの活動に参加していました。週一回の練習に加え、コンサートを開いたり、教会で発表を行ったりしていました。入ったばかりのときは、英語の歌詞を覚えることに必死でついていくのがやっとでしたが、メンバーからメロディだけでも大丈夫！一緒に歌うことを楽しむことのほうが大事！と言ってもらい、メンバーの助けをかりながら楽しむことができました。

三つ目の活動としては、春休み中の子供スポーツ教室のボランティアです。地域の方々とも関わりたいという強い思いがあったため、大好きなスポーツと子供に関係があるものを選びました。実際に活動を通して、普段の留学生活ではかかわることができなかった子供たちや運営スタッフなどと関わ

ることができ、また自分の限りある英語力でいかにして貢献するか、主体的に考えて行動に移せたことが、どんな場所にも飛び込んでやり抜く力を養うことにつながりました。

どの活動においても最初はアウトサイダーとして扱われ、どうして他のメンバーと同じように関われないのだろうと悩みました。しかし、そこで負けてたまるか！何が何でもメンバーの一員として認めてもらうぞ！と粘り強く継続し、積極的にメンバーに声をかけたり、仕事を探したりと自分なりに周囲にアプローチをかけていきました。その結果、どの活動においてもメンバーの一員として認められました。ぜひ、留学の予定がある学生の方には積極的に課外活動に参加してもらい、机に座っているだけでは得られないような多様な力を身に着けて頂きたいです。

③ 海外周遊

私は、一年間の留学中にヨーロッパの12カ国を周りました。スペインやドイツ、北欧など様々な地域に赴きましたが、その中で今まで出会ったことがない価値観や文化、世界中の人々と出会い、自分の見聞を大きく広げられたと思います。旅行と聞くと遊んでいたように聞こえますが、実際には日程から飛行機の手配、宿泊場所などすべてを自分で計画する必要があったため、計画したものを実行に移していく力がつきました。また、日本とは違い交通機関がきちんと整備されていないところもあり様々なハプニングもありましたが、物事に臨機応変に対応していく力も養えたと思います。さらに、様々な国々を周ることで日本との違いを発見でき、日本の良さや見直すべきところを改めて考える貴重な機会となりました。



図3 一番気に入ったポルトガルの風景

5. 留学を振り返ってみて

一年間の留学を経験して思うことは、冒頭にも述べたように「留学にはお金では買えないほどの価値がつまっている」ということです。留学を通して、もちろん英語力は格段に上がりました。これは、一つの留学の財産だと思います。しかし、それ以上に物事をやり続ける粘り強さや実行力、世界中に広がる人脈、多様な考え方への適応力など、自分が今まで持っていなかった多くの力を吸収することができました。また、海外に実際に住むことを通して、将来自分がどんなことをしていきたいのかということに対して、具体的なビジョンを持つことができました。留学前は、ただグローバルな企業で働きたいと思っていましたが、留学後は「日本の高品質な製品を世界中に送り出し、日本のモノづくりの力を世界にアピールできる仕事をしたい」と考えています。

確かに留学には多額の費用が掛かります。しかし、投資した資金以上に多くのことを学び経験でき

る、素晴らしいものだと思います。ぜひ、多くの学生の方々に留学に挑戦していただき、自己の成長へとつなげて行ってほしいです。

6. 最後に

留学を実現するためには、もちろん学生の努力が必要です。しかし、同時に大学側の更なる充実したサポートも必要だと感じました。

一つ目としては、今以上に経済的支援の体制を整えることです。私は留学期間中、日本学生支援機構から奨学金を頂いていましたが、留学準備のための費用が予想以上に掛かりました。具体的にはビザの申請料や保険料、英語資格のための受験料です。このように予想以上の費用が掛かったことで、留学前から経済的不安を感じざるを得ませんでした。学生の中には、経済的に厳しいと判断してしまい、留学するに値する能力を持っているにも関わらずあきらめてしまう学生もいると思います。しかし、それではグローバルな舞台で活躍できるような学生の育成は難しいと考えます。そのため、留学期間だけではなく留学準備のための費用も軽減されると、学生の負担も少なくなるのではないかと思います。可能であるならば、留学準備に関わる事務手続きの費用等を支援して頂きたいです。

二つ目としては、大学内において外国人留学生と日本人学生が触れ合う機会を多く作ることです。なぜなら、海外の人と話す機会が増えるだけでも、海外に対する抵抗感が少なくなるのではないかと思います。なかなか留学に踏み切れない理由として、多くの学生は英語力の不安をあげます。英語が上手に話せない、相手が何を言っているかわからないなどです。しかし、海外の方々と実際にコミュニケーションをとる前からあきらめているように感じます。確かに、英語でのコミュニケーションは容易なことではありません。しかし、少しずつ海外の方と接する機会を増やしていけば、必ず英語で交流する面白さや楽しさに気づけると思います。ですから、より多くの学生に外へ飛び出してもらうためにも、大学側が多くの外国人留学生を受け入れるようにし、外国人留学生との合同講義や交流の場を増やしていくことが大切だと思います。

これから、より一層学生への支援が充実し、多くの学生が海外へ挑戦していけるよう願っています。